

第2回

ナチュラル ファーマーズ 大集合

人と地球の健康を考える農家は
みんなナチュラルファーマー

東京・浜松町

2023/2/18(土)

10:00~11:30 映画上映
13:00~17:30 講演と生産者発表
18:30~ 懇親会



ゲスト講師
医師・認定産業医
桐村 里紗氏

分子栄養療法や腸内フローラなどを基にした予防医療、人と地球の健康を実現するプラネタリーヘルスやセクシャルウェルネスなどの情報をテレビ、雑誌なメディアで発信。著書に『腸と森の「土」を育てる 微生物が健康にする人と環境』（光文社新書）等。

5名の生産者
最新情報も
満載です



新潟
ふなくぼ農園
協同組合人田畑代表
船久保 栄彦

スーパーを辞め、自然栽培農家になりたくて転職。お米と野菜の自然栽培をはじめる。生物と農業の共生を大事にしている。



熊本
にしだ果樹園
西田 淳一

1974年生まれ、熊本県出身。2006年に独立して「にしだ果樹園」として、果樹の自然栽培に着手。バイオダイナミック農法と自然栽培を掛け合わせた独自の農法で、月の満ち欠けに合わせて収穫、草刈、剪定などを管理し、柑橘類を中心に年間約40品種を直売。



青森
はる農園
春 義彦

神奈川から夫婦で青森に移住。就農1年目有機農業で野菜販売を軸にスタート。その後自然栽培と出会い、現在は25種類の作物を育てている。



静岡
なごみ農園
宮田 雅和

脱サラし農家へ転身。循環をテーマに、「何も畑に入れない」自然の力を最大限活かした自然栽培にこだわっている。



山形
十四代
中川吉右衛門
中川 吉右衛門

上京し起業。自然栽培に衝撃を受け「この農法で世界を変えたい」と一念発起、2011年に高島町で就農。米・枝豆・大豆を自然栽培している。

会場 東京・浜松町「AP 浜松町」会議室 C
〒105-0011 東京都港区芝公園 2-4-1
芝パークビル B 館 B1F



こちらからお申し込みいただけます。
<https://nfd23.peatix.com/>

問合せ info@nehcr.jp <https://nehcr.jp>
☎ 0237-48-6658

会場 **AP浜松町** 港区芝公園2-4-1
芝パークビル B館 B1F

スケジュール

第一部 映画上映

10:00~11:30

「君の根は。大地再生に挑む人びと」上映

昼休憩

第二部 講演と発表

13:00 開会

- ・ネーグルの取り組み紹介
- ・成果報告、予定事業の説明

13:45 ゲスト講師特別講演

桐村 里紗氏

「人と地球の健康“プラネタリーヘルス”を」

小休憩 (20分)

15:30 生産者事例報告

ふなくぼ農園、協同組合人田畑代表

船久保 栄彦氏 新潟

「地域復興を担う酒造りに挑戦」

16:00 にしだ果樹園

西田 淳一氏 熊本

「自然栽培果樹園の継承」

16:20 はる農園

春 義彦氏 青森

16:50 なごみ農園

宮田 雅和氏 静岡

17:10 十四代 中川吉右衛門

中川 吉右衛門氏 山形

17:30 閉会の挨拶・ご案内

18:30~20:30

懇親会 ビーガンシェフ

本道 佳子さんによるケータリング

費用 映画上映 1,200円

講演と発表 生産者500円 一般2,000円
(現地、オンライン共に)

※懇親会は、原則生産者のみでの開催となります。

定員 映画90名

現地参加は定員70名 オンライン定員100名

支払い



<https://nfd23.peatix.com/>
QRまたは告知サイトでお支払い

アクセス

<JR山手線・京浜東北線をご利用の場合>
「浜松町駅」北出口より徒歩約7分
<都営浅草線・大江戸線をご利用の場合>
「大門駅」A6出口より徒歩約3分

第一部 映画上映 10:00~11:30

1,200円 定員 90名

「To Which We Belong」

邦題：君の根は。

大地再生に挑む人びと

「リジェネラティブ(大地再生)」という世界観と出会い、農業・漁業・牧畜を、そして生き方そのものを転換した人びとに迫るドキュメンタリー映画。

農業の工業化がもたらした気候危機を、いまそれに直面する人々が不耕起栽培により世界規模の土の再生に取り組む。※映画の鑑賞には、別途お申し込みが必要です。



第二部 講演と発表



ゲスト講師：医師・認定産業医 **桐村里紗氏**

1980年岡山県生まれ。2004年愛媛大学医学部医学科卒。内科医・認定産業医。tenrai株式会社代表取締役医師。

臨床現場において最新の分子整合栄養学やバイオロジカル医療・腸内フローラ研究などをもとにした予防医療、生活習慣病から終末期医療まで幅広く診療経験を積む。生命科学、常在細菌学、意識科学、人文科学、最新の数理学などをもとにヘルスケアの意味を再定義し、食や農業、環境問題への洞察をもとに人と地球全体の健康を実現する「プラネタリーヘルスケア」をはじめ、最新のヘルスケア・ウェルネス情報をさまざまなメディアを通じ発信している。

ナチュラルファーマーによる発表

船久保栄彦（新潟：ふなくぼ農園、協同組合人田畑代表）

長岡高専機械工学科を卒業後、スーパーに就職。結婚と子供の誕生を機に大量生産・販売・消費の営みに疑問を持ち、人と生き物が共生した暮らしを目指し、そのためには経済活動と自然環境保護の両立が必要と考え、木村氏の著書「奇跡のリンゴ」に感銘を受け自然栽培に取り組むことを決意。2015年には田んぼを買い31歳でスーパーを辞め就農。「ふなくぼ農園」を本格的にスタート。その他同志をもつ自然栽培の仲間と協同組合を立ち上げ販売やイベント等開催し活動している。

西田淳一（熊本：にしだ果樹園）

1974年生まれ、熊本県出身。陸上選手として富士通に入社後、2000年にUターン。家業である農業を手伝いながら、2006年に「にしだ果樹園」として、果樹の自然栽培に着手。20世紀はじめのオーストリアの哲学者・思想家・教育者であるルドルフ・シュタイナーが提唱したバイオダイナミック農法と自然栽培を掛け合わせた独自の農法で、月の満ち欠けに合わせて収穫、草刈、剪定などを管理し、白桃、すもも、キウイ、熊本特産の晩白柚や温州みかん、不知火、はっさく、日向夏、レモンなど柑橘類を中心に年間約40品種を直売している。

春義彦（青森：はる農園）

2009年に脱サラし、約2年間栃木県にある帰農志塾で研修されて、11年3月神奈川から夫婦で青森に移住し営農を開始。就農1年目有機農業で野菜セット販売を軸にスタート。その後自然栽培と出会い、有機農業から自然栽培へ転換され、数年で自然栽培に兆しが見えはじめ、翌年には準備型の受入れ農家認定を受け、研修生2名を受入、事務所を借りて出荷場として利用、作業効率が上がって出荷量も増え大きな転機となる。22年には国のみどり事業に五戸町が取組参加、長芋など一部の野菜を有機農業で再開。

宮田雅和（静岡：なごみ農園）

コンピュータープログラマーから農家へ転身。2001年に独立。「なごみ農園」を始める。静岡県富士宮の自然豊かな環境で、自然のリズムで生活したく有機農業の道へ。年間200品種ほどの米、野菜、穀物、果物を栽培。自然の法則に即した循環をテーマに、身体にしみる、優しい野菜、個性を生かした品種を選び、「何も畑にいれない」自然の力を最大限活かした自然栽培にこだわって栽培しています。ヤギ、にわとりも育て味噌屋もやられています。

中川吉右衛門（山形：十四代 中川吉右衛門）

高島町の農家に生まれるが農業の道には進まず、上京。とび・土木業で起業。ある時、自然栽培に取り組むリンゴ農家の存在を知り衝撃を受け「この農法で世界を変えることができる」と一念発起、自然栽培の農家になることを決意。2011年に高島町で就農。自然界の生態系を最大限活用することで、農業も肥料も使わずに作物を栽培する技術。雑草や害虫とされる生き物とも共存する「誰も敵としない、究極の平和主義」の栽培方法だと吉右衛門さんは考えています。全国的にまだまだ少ない自然栽培農家として日々農業を愉しんでいる。

懇親会（立食形式）

国境なき料理団「本道佳子シェフ」によるヴィーガン料理。
自然栽培素材を使ったケータリングを用意してます。

